

## F 7 家政系情報基礎教育についてーネットワークシステムの活用ー

日本女大計算研究所 ○立花厚子 恒川久子 二宮玲子

日本女子大家政 阿部祥子

目的 近年情報化社会がますます進み、パーソナルコンピュータの低価格化にともない、職場や学校、家庭などいたる所で使用されるようになってきている。これまでのホストコンピュータを中心としたシステムにかわって、大学では情報化、国際化、活性化を目指した全学的なコンピュータネットワーク環境が構築されつつある。本学においても平成3年度目白地区にネットワーク型教育システムが導入された。家政系情報教育に学内ネットワークシステムを使用し、情報活用能力の育成に役立てたいとかがえている。そこで、授業において学内電子メールシステムでのレポートの授受等を始める前段階として、パソコン通信、電子メールなどを中心にしたアンケート調査を実施し、家政系情報教育の実習面に役立てることを目的とした。

方法 平成3年度後期に家政学部共通専門科目履修学生を対象に授業の開始前にアンケート調査を実施した。調査内容は主に、コンピュータについての意識、使用経験、使用方法、コンピュータ通信関係の言葉等についてである。

結果 コンピュータについては、教養として必要、社会に出たとき役立つ、便利と肯定的な考えが多いものの、ワープロだけ使えればよいなどの意見もあった。コンピュータ関連の用語については、パソコン通信という言葉は知っているものの、通信関連用語はほとんど知らず、プログラミングばかりでなく、種々体験学習が大事であることがわかった。